



発行日：平成28年7月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第31回海部会WGを開催しました！

6月21日（火曜日）に第31回海部会WGが西尾市で開催されました。今回のWGでは井上会員が宍道湖で取り組まれている活動報告の他、奥矢作森林フェスティバルへの参加について話し合いました。



日時：H28年6月21日（火） 9:30～11:30  
場所：西尾市役所会議棟  
参加者：18名（事務局含む）

### ◆主な会議内容

#### 1.宍道湖の事例報



##### 伊勢・三河湾流域ネットワーク 井上氏からの話題提供

●宍道湖では4年程前から主要資源であるヤマトシジミの漁獲が大幅に減少し、この要因として宍道湖の環境悪化が課題となっていたことから、漁獲回復に向けた技術的対策として以下の研究に取り組んでいます。

- 1：硫化水素の無毒化（青潮対策）
- 2：底質の細泥化の改善（ヘドロ対策）
- 3：餌となるケイ藻の優勢化（アオコ・有害赤潮対策）

●愛知県の三河湾でもアオコ、赤潮、青潮など同じ課題を抱えており、主要資源であるアサリへの影響が危惧されることから、実用可能な技術を展開していきたいと思っています。



#### 2.海の水質調査について



●三河湾の水質の問題を広く知ってもらうために、愛知県水産試験場と協力して、地元の子どもの対象としてプランクトンや二枚貝の浮遊幼生などを観察する調査を企画していきます。



#### 3.「奥矢作森林フェスティバル」への参加について



●7月16日（土）に開催される奥矢作森林フェスティバルに懇談会のブースを設置し、石川組合長の協力のもと“海＝三河湾”をPRする場としてアサリなど海の生き物や環境に関する展示を行います。





### ●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(●意見 ▶回答)

#### (1) 宍道湖の事例報告

- 宍道湖ではヤマトシジミが主要な漁業資源であり、地元の観光資源にもなっている。これは三河湾のアサリにも同じことがいえる。宍道湖のシジミ漁獲量が4年前に大きく減少し、非常に問題となっている。漁獲回復の支援をして、将来的には三河湾のアサリに技術移転をしたいと思い、宍道湖で研究を行っている。ヤマトシジミが生きるとか増えるとか死ぬとかというのは、人間の衣食住と同じと考えている。「衣」は水質で、宍道湖でも硫化水素、三河湾の苦潮問題と似たところがある。「食」は、塩分が少ないときはアオコ、塩分が高いときは有害青潮が出る。この対策は食(餌)として必要。「住」はヤマトシジミもアサリと同じように泥を嫌い、砂州、砂礫を好む。そういう意味ではヘドロ問題が重要である。(井上)
- 三河地区は、昔は、はげ山であり、そのときのほうが三河湾は豊かであったと聞いている。イメージ的には木や森があるほうがいいかと思ったのだが、はげ山地帯であれば、土砂が流れやすいのと同時にケイ酸供給の面からも適しているということか?(平岩)
- ▶ そういうことではなく、大雨が降れば、水が表面を流れ、下の水を引き上げる。その引き上げる先に深場があって、その深場に窒素とかリンとかケイ酸の濃いものがあった。だから、上を淡水が流れると、それが引き上げられて、窒素、リン、ケイ酸が三河湾に供給されるというふうに考えられる。(井上)
- 赤潮対策として赤土を散布することは、昔瀬戸内海や九州などで実施されていた方法である。赤潮の抑制には効果があったが、他に副次的に生態系に対して影響があるということで、今では海域に赤土を散布するというについては禁止している。(石田)
- 今の三河湾は貧酸素をなくさないといけない。今年は特に栄養源が少ないだろう。アサリだけでいうと、成長が悪い。今までなら、ここの場所は悪いが、他の場所は良いということだったが、今年は三河湾全体が悪く、これまでで最悪だと感じている。保健所のほうから貧酸素水塊の情報が出ている。(石川)
- 伊勢湾も含めて、最近アサリなどが栄養不足に陥っているのではないかという疑いが強い。既に瀬戸内海では顕著であるが、伊勢湾や三河湾も漁業生産の面からみて栄養分が不足する傾向にあるとみられている。(石田)

#### (2) 海の水質調査について

- 東幡豆の地元の小学生に、海に触ればいろいろな生き物がいるので遊びながら勉強が自然とできていくが、中学生に伝える場がない。中学生になると遊びから一歩前に入らないことには意味がないという気がしている。プランクトンの調査ならそんなに難しいことではないので、できるかと思う。(石川)
- ▶ プランクトンについては、すごく興味を持ってくれる子どもと、全く興味を持たない子どもとに分かれる。(石田)
- アサリなどの二枚貝の浮遊幼生なども見られたらよい。(青木)
- 水産試験場と石川組合長が協力して、調査の企画案を考えていただけるとありがたい。(事務局)

#### (3) 「奥矢作森林フェスティバル」への参加について

- 矢作水源フォレストランド協議会が主催している「奥矢作森林フェスティバル」(7月16日 土曜日)への参加を山部会会員から要請されている。三河湾のことを山の人に考えてもらう機会になる。(事務局)
- 干潟の砂を持って行って、矢作ダムと砂と同じであると見せるのもよいのではないか。この砂が海でアサリを育てているということが伝えることができればよい。(青木)
- タッチプールであれば、よくやっているのに対応できる。ヤドカリやツメタガイはアサリや二枚貝の天敵であるといったことなどを見せるのは簡単にできる。(石川)
- アサリを水槽に入れて汚れた水をきれいにする浄化実験などもよいのではないか。(平岩)

### 今後の予定

流域連携に関するイベントとして、7月16日に奥矢作森林フェスティバルが開催されます。

#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。